

令和7年1月15日（水曜日）

故足立敏之氏偲ぶ

国土づくりの思い継ぐ

建設業界の職域代表として国政で活躍し、2024年12月27日に死去した自民党参院議員の足立敏之氏の通夜が10日、葬儀が11日、東京都港区の増上寺で開かれた。政府や業界の関係者らが多数参列し、故人との別れを惜しんだ。

足立氏は1979年に京都大学大学院工学研究科を修了し、建設省（現国土交通省）に入省。技監などを経て2016年参院選の比例代表で初当選し、現在2期目だった。「建設産業の再生なくして、日本の再生なし」をスローガンに、建設業界の持続的発展と、安全・安心で豊かな国土づくりを最後まで訴え続けた。

葬儀では友人や後輩が弔辞を述べた。スポーツ好きの足立氏を紹介した京都大学時代の同級生の藤田乾一氏は「輪の中心には常にあなたがいた」と話し、池内幸司河川情報センター理事長も「先輩というだけでなく兄のような温かさで、私たちが導いてくれた」と足立氏の人柄に触れた。

同じ職域代表の佐藤信秋参院議員は、少数与党となった先の臨時国会で足立氏が野党との調整役などで24年度補正予算の成立に貢献したとし、「官僚出身で職域代表の議員が、その専門性を生かしながらも国会対策に尽力する姿は、まさに参議院の独自性を体現したものだ」とたたえた。

葬儀委員長として参列者にあいさつした前首相の岸



田文雄衆院議員は「足立先生がたびたび訴えてきたように、諸外国に引けを取らないインフラ整備を進める。気候変動が進む中で、しっかり対応できる事前防災を推進する。こうした国土づくりに力を合わせていかなうと訴えた。」と訴えた。

所長として建設に携わった宮ヶ瀬ダムをかたどった祭壇だった。10日、東京都港区の増上寺で行われた通夜で